

## 川崎市民の **4** 人に **1** 人は 避難者に

家が壊れたり、火災などで自宅に住めなくなってしまう人のほか、余震不安や断水、停電などさまざまな事情により、川崎市民の4人に1人、約36万人が一時的に避難するかもしれません。いつでもすぐに避難できるように備えておきましょう。

## 川崎市の備蓄は 全市民の **1** 割!?

川崎市が用意している食料などの備蓄は全市民の約9%分。これは、建物が全壊または焼失し、住む家がなくなってしまうと想定される人数分です。そのため、避難所へ行けばすぐに備蓄が支給されるわけではありません。まずは各家庭での備蓄と非常持出品の備えが必要です。



## **52** % の世帯で断水、 **40** % の世帯でトイレ不能

蛇口をひねれば当たり前のように出てくる水道水。しかし大地震が起きると市内約52%の世帯で断水します。水さえあれば数日間生き延びることができるといわれ、災害時は何よりも水は大事なものです。また、下水道の機能支障が約40%の世帯で起こります。下水道が使えないと影響を受けるのはトイレ。下水道が損傷しているのに無理に流したら逆流してきたなんてことも！自宅での避難生活のためにしっかりとトイレ対策を。

## 数字でわかる 川崎市は どうなるの？

いつ起きてもおかしくない大地震。川崎市では、川崎市直下で震度7の地震が起きた場合の被害をまとめています。まさか「自分は大丈夫」なんて思っていない？

※川崎市地震被害想定調査（平成24年度）による

早くて

# 3

日後

それまで  
物資は届かない

ほかの地域から送られる救援物資が届くまで、早くても3日はかかる想定されます。そのため、その間は自宅にあるもので乗り切る必要があります。だからこそ、家庭で最低3日間、できれば7日間過ごせる備えが必要です。



自分ゴトとして考えよう

## 防|災|ア|ン|ケ|ー|ト

市民のみなさんに聞いてみました!  
あなたも一緒に質問に答えてみて

※アンケートはWebで、平成29年7/11~21実施(有効回答数852)

Question

1

大地震が起きた時  
まずどこに  
避難しますか?

結果はP4~5をcheck

Question

2

災害時の避難場所を  
3秒で答えられますか?

結果はP4~5をcheck

Question

3

今、あなたの冷蔵庫や  
家庭内にある食料で  
何日間生活できると  
思いますか?

結果はP6をcheck

Question

4

大地震が起きた時  
生き残る自信は  
ありますか?

結果はP7をcheck

### 災害時の情報入手

#### ●メールニュースかわさき

登録したメールアドレスに川崎市の防災、  
気象、災害などの情報を配信します。  
登録は、下記アドレスに空メールを送信

#### ●パソコン・スマートフォン

mailnews@k-mail.  
city.kawasaki.jp

#### ●携帯電話

mailnews-m@k-mail.  
city.kawasaki.jp



#### ●川崎市防災情報ポータルサイト

川崎市内の災害に関する緊急情報や被害情報、  
避難情報などを掲載。平常時にも役立つ  
情報が満載

#### ●パソコン・スマートフォン

http://portal.kikikanri.  
city.kawasaki.jp/

#### ●携帯電話

http://portal.kikikanri.  
city.kawasaki.jp/m/



#### ●かわさき防災アプリ

災害時の緊急情報  
や避難情報などを  
プッシュ通知で受  
けられます



ios

Android

#### ●川崎市危機管理室ツイッター



@kawasaki\_bousai

# 1万5822人が



## 一斉に 救急車を 呼んだら

川崎市内で1日に出場する救急車の平均回数は187回。大地震が起きると市内では1万5822人の重軽傷者が出ると想定されています。そのとき救急車を呼んでもすぐに駆けつけられるとは限りません。また、病院に行っても、その場ですぐに治療してもらえないとは限りません。災害時は“自分の身は自分で守る”ことが大原則。まずはケガをしないように備え、もしものために応急手当の方法を覚えておきましょう。

### 全壊する建物の

# 8割 は木造

全市で約2万2330棟の建物が全壊すると想定。そのうちの約82%が木造の建物。築35年以上の建物は要注意!また、半壊建物は約4万9800棟との想定も。今すぐ自宅の耐震性をチェック!

## 最大95%の通信規制も!?

地震が起きて最初に思うことは、大切な人の安否。電話で連絡すればいいと思いがちですが、発災時は、みんなが一斉に電話をかけるため、回線が集中し、繋がりにくくなることも。

大地震発生時に自宅にいるとは限りません。交通インフラが途絶え、家に帰れなくなるうえ、通信網の通信規制が行われ家族と連絡を取ることがすらも困難に。東日本大震災時には、固定電話、携帯電話ともに最大で95%の音声通話が規制されました。電話は繋がらないという前提で、伝言ダイヤル「171」を利用するなど、連絡方法や集合場所などを日頃から家族で話し合っておきましょう。

